

静岡県委託事業
平成 28 年度
あざれあ地域協働事業

実績報告書

特定非営利活動法人
静岡県男女共同参画センター交流会議

目 次

1. 在宅避難で生きぬこう！わたしたちの防災	
中田一丁目女性防災グループ・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2. 平成 28 年度 女性のための防災・減災リーダー養成講座	
特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク・・・・・・・・	8
3. ～自分力から地域力へ～	
要配慮者の視点で再考する防災と地域力向上のための事業	
NPO 法人 はままつ子育てネットワークぴっぴ・・・・・・・・	14
4. 社会に声を届けよう！ ～未来をカタチに～	
男女共同参画ネット ミモザしずおか・・・・・・・・	18
5. 男女共同参画 連続基礎講座	
ウィミンズネットいわた・・・・・・・・	22
6. 仕事と生活の調和を考える ー人口減少社会と男女共同参画の課題ー	
みらいネット浜松・・・・・・・・	26
7. みんなで「家族」のことを考える！ Part 2	
しずおか女性の会・・・・・・・・	28
8. 知っていますか？見えていますか？ 女性と貧困	
NPO 法人 世界女性会議ネットワーク静岡・・・・・・・・	36
9. 小児発達医による講演とパンフルートの演奏会	
親のいう事を聞かない子、どうしてでしょうか？ー子どもの発達と行動から子どもを理解するー	
特定非営利活動法人 子ども虐待防止センター・しずおか・・・・・・・・	42

〈資料〉実施要綱

1. 在宅避難で生きぬこう！

わたしたちの防災

中田一丁目女性防災グループ

代表 井上 美佐恵、鈴木恵美子

1. 事業目的

あざれあ交流会議主催「防災女子力パワーアップ講座」で学んだことを地域に広げ伝えていく。

女性目線での防災のかかわり方や役割を知り、地域の方々の防災、とくに女性ならではの防災意識向上を図るとともに、女性が男性と一緒に積極的に防災に参加するようにつなげていく。

2. 事業内容

①中田一丁目女性防災講座Ⅱ

5月に女性防災講座を第一回目として終了後、あざれあ地域協働事業として第二回中田一丁目女性防災講座を開催した。

地域の特性から自宅避難が中心となることをふまえて、『“あーっ電気・ガス・水道が使えない！最小限の水で超簡単でおいしい震災食を作ってみよう”』をきっかけ、スーパーの袋を使い常備食材で、あたたかい災害食を作ることを皆で挑戦、試食をした。

じゃがりこポテトサラダ、蒸しパン、ナポリタン、大根切干しの和えもの、シーチキンじゃが、ご飯の6品を卓上コンロとポリ袋を使って、参加者に実際に調理をしてもらうことで、災害時の食事の作り方、水の大切さを知ってもらう

た。

【実施日時】平成28年9月25日（木）

午後7時から

【実施場所】静岡市駿河区稲川 1-10-15

伊河麻神社集会所 1階

【対象者】町内男女

【参加人数】33人



防災講座Ⅱ（1）



防災講座Ⅱ（2）



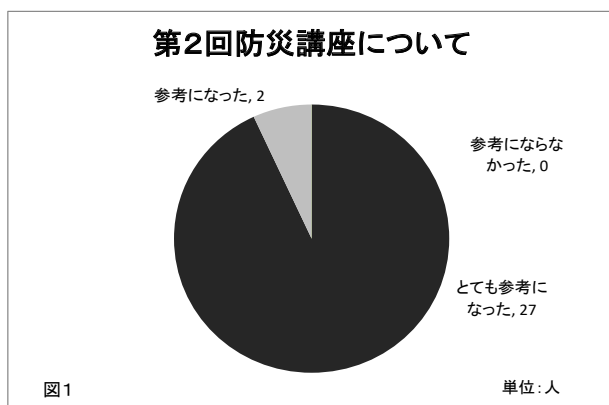
防災講座Ⅱ（３）

【アンケート集計結果】

参加人数	単位：人
全体	33
男	7
女	26
アンケート回収数	29
回収率	87.9%

1. 第2回防災講座について（図1）

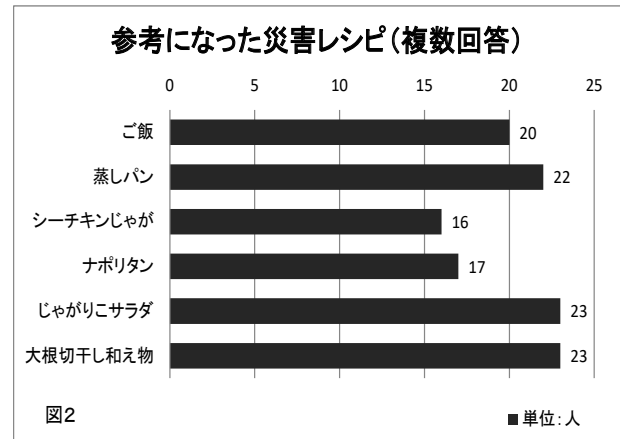
とても参考になった	27
参考になった	2
参考にならなかった	0



2. 参考になった災害レシピはなんですか？ （複数回答可）（図2）

ご飯	20
蒸しパン	22
シーチキンじゃが	16

ナポリタン	17
じゃがりこサラダ	23
大根切干し和え物	23



上記を選んだ理由（自由記述）

- ・ 案外簡単に食事が作れることに感動。
- ・ あたたかいものが食べられるだけで、ホッとして安心できると思います。
- ・ 思いがけない料理にビックリでした。
- ・ ポリ袋で作れて、実際に試食できて良かったです。
- ・ テレビでしか作り方を見たことがなかったので、実際に作り方を教えてもらってよかった。
- ・ 鍋を汚さずにポリ袋一つでできることがわかった。
- ・ 子どもも喜んでやれると思いました。
- ・ 実際に聞かなければわからないことも多く、参考になった。
- ・ 非常時に少量の水で、あたたかいものが作れるのがよかった。
- ・ 水の大切さがわかった。
- ・ 災害時に鍋で作れると思ったが、洗うことまで考えなかった。
- ・ 身近な材料を使ったレシピがたいへん参考になった。
- ・ ゴミも出ないし、何でも袋に入れてあたたかいものができるのが参考になった。
- ・ カップ麺を食べ続けると、ほんの数日で体調がおかしくなるとわかったので、今回の内

容を活用したいと思った。

- ・実際に作ったことで、見て感じてよかった。
- ・スーパーの手提げ袋や新聞紙で作るスリッパもよかった。



試食



ご飯の作り方

② 子育てママのための防災

赤ちゃんと避難する時、どんな物が必要か、最小限必要な物はなにかをテーマに実際に必要品を入れた袋を背負って、赤ちゃんを抱っこ紐で抱いて体感してもらった。

袋の中身を出しながら、必要な物について話

し合ってもらった。

子どもを守るのはママ、そして普段から近所の方々とのつながりをもつ重要性を、子育て中のママに知ってもらった。

【実施日時】平成28年10月18日（火）

10:00～11:30

【実施場所】静岡市駿河区稲川1-10-15

伊河麻神社集会所 2階 和室

【対象者】0歳児とその保護者（中田学区）

【参加人数】13組

【連携・協働団体】スマイルママ



スマイルママ

③ 中田一丁目女性防災講座Ⅲ

静岡市の防災担当職員が教える『災害時に備えておく便利な生活用品』をテーマに、東日本大震災をはじめ4月の熊本地震にも、すぐに駆けつけた際の現地の被災状況を、映像と話をまじえて説明してもらった。

また被災地に向かう時に持っていくバッグの中身を公開していただき、これだけは用意すると良いもの、役に立つものなど、一つ一つ見せてどのように使うか教えていただいた。

自分たちの住んでいる町の古地図と現在の地図を比較して、どのような対策が必要か参加者に知ってもらった。

【事業目的】 自助、共助のためには、どんな準備が必要かを再確認してもらう。

【実施日時】 平成 28 年 10 月 28 日（金）

午後 7 時から

【実施場所】 静岡市駿河区稲川 1-10-15

伊河麻神社集会所 1 階

【対象者】 町内男女

【参加人数】 35 人

【連携・協働団体】

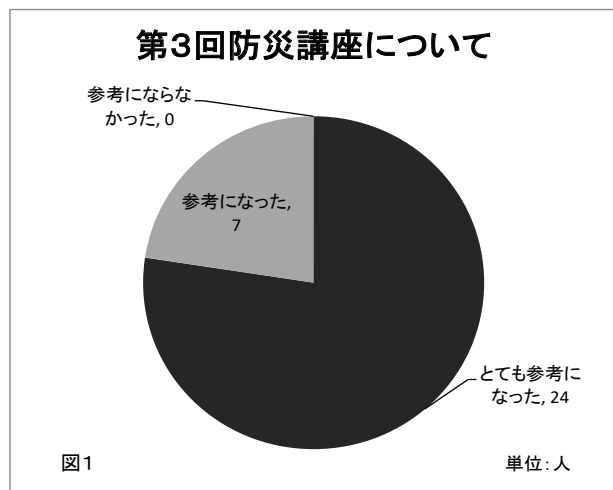
駿河区役所地域総務課地域防災係

【アンケート集計結果】

参加人数	単位：人
全体	35
男	8
女	27
アンケート回収数	31
回収率	88.6%

1. 第 3 回防災講座について（図 1）

とても参考になった	24
参考になった	7
参考にならなかった	0



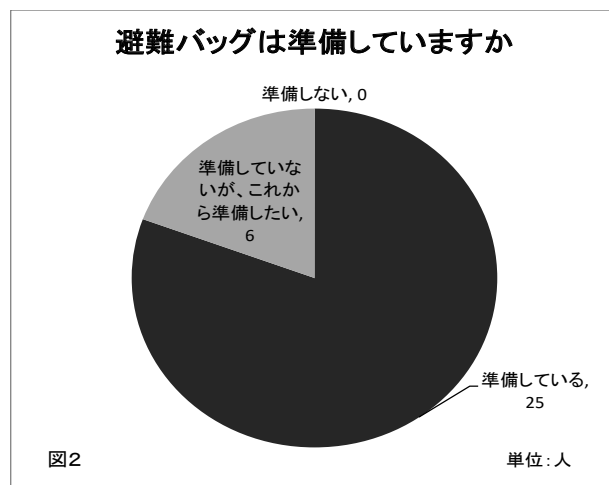
上記を選んだ理由（自由記述）

- ・熊本地震や避難所の細かい説明と映像により、具体的な状況を感じ取ることができた。
- ・実際に被災地に行く人の話なので、よく理解できた。
- ・情報収集の仕方。

- ・非常持ち出し備品。
- ・見落としていたことに気づかされた。
- ・ひとつひとつビニール袋に入れておく。
- ・まだ十分に準備していない物があった。
- ・危機意識を高めてくれた。
- ・地震に負けない家に住むこと。
- ・家具の固定が初歩の防災として大切なこと。
- ・非常持ち出し袋の内容（きめ細かな用品）。

2. 災害時に持ち出せる「避難バッグ、リュック」は準備していますか？（図 2）

準備している	24
準備していないが、これから準備したい	7
準備しない	0



3. 紹介された避難バッグの準備用品の中

でぜひ準備しておきたいと思ったものはありましたか？（図 3）

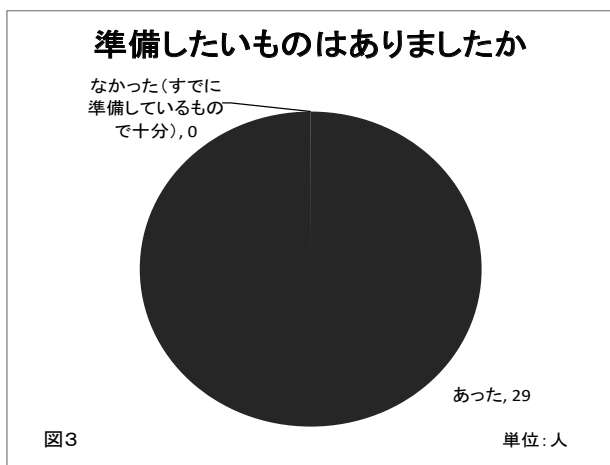
あった	24
なかった	
（すでに準備しているもので十分）	0

準備したいと思ったものは何ですか？

（自由記述）

- ・ドライシャンプー
- ・おしりを拭くもの（清拭料）
- ・芯を抜いたトイレットペーパー
- ・空のペットボトル（シャワーにする）
- ・ポンチョ

- ・ロープ
- ・ソーイングセット
- ・トイレ
- ・寝袋
- ・スリッパ
- ・洗面用具
- ・使い捨て手袋
- ・常備薬
- ・液体歯磨き



防災講座Ⅲ（１）



防災講座Ⅲ（２）



防災講座Ⅲ（３）



携帯ビデ、ウェットタオル、水のいらないシャンプー

3. 事業の成果

災害時後において男性中心の活動となっていく中、女性にしか分からないストレス、リスクを再確認し、男性が中心となっていた防災から女性が防災にかかわることの大切さを知ってもらうきっかけとなった。

20代から70代の参加となり、普段交流できなかった年代の中で、仲間意識も芽生えた。高齢者の方からは、「話を聞いただけで安心。ひと

りではない！と感じた」との感想をうけた。

私達は「その日は必ずやってくる！」をかかげ、自助・近所・共助・公助をモットーに地域の連帯を少しでもつなげて行きたいと感じた。

また、災害時に女性はと思ったら良いのか、何を用意したら？自宅避難での食事は？と具体的に女性目線での意識を持ってもらうことができた。

今年度の防災訓練では私達女性防災グループは災害食コーナーの依頼を受け、レシピ実演・試食を行い、女性の防災参加の大切さを発信することができた。また、3回の講座には多数の男性の参加があり、男性や町内会役員の意識も大きく変化してきたことで、次年度からは町内会役員、防災役員ともに女性を入れることも検討されはじめている。さらに町内防災のマニュアル作り、冊子作りもしていこうと町内全体の防災意識が高まってきている。

3回の講座を通して学んだこと伝えたいことを中田一丁目防災として冊子にまとめ、地域の皆様にお渡しできるようにしました。

4. 協働団体

- ・スマイルママ
- ・駿河区役所地域総務課地域防災係

子育てサロン

スマイルママ

『子育てママのための防災』

いつ：平成28年10月18日(火) 10:00～11:30

どこで：伊河麻会館 2階 和室

おはなし：中田一丁目女性防災グループ

- ・赤ちゃんと一緒に避難する時って、どんなものが必要なの？
- ・非常用袋はたくさん入れたら、重くて持てない。
- ・最低限必要な物ってなに？
- ・抱っこ紐は必須？



<お問い合わせ先>
中田福祉会 子育てサロン
代表 小泉 淑子 ☎ 090-9199-5438

「平成28年度あざみあ地域協働事業」として、中田一丁目女性防災グループが共同して実施します。

チラシ（子育てのための防災）

平成28年度あざみあ地域協働事業

第二回 中田一丁目女性防災講座

男性も大歓迎

あーっ！電気、ガス、水道が使えない！
最小限の水で、超簡単でおいしい震災食を作ってみよう

いつ：平成28年9月15日(木) 午後7時から

どこで：伊河麻神社 1階 集会場 ★試食できます



お米、缶詰、乾物、パスタがあるけど・・・

肉や野菜は使えないの？

- ① 防災食を買って備蓄しておくのも良いですが、いつもの食材で作ることができます。
- ② あたたくで食べることができます。
- ③ 水が貴重になりますから、少しの水で調理します。
- ④ 食器も汚さず使い物を少なくします。

<申し込み欄>

区 組

※ 各組長は9月5日までに町内会長までお願いします。

参加者のお名前

問い合わせ先：中田一丁目女性防災グループ（代表 7区 井上 ☎ 289-2955）

チラシ（防災講座Ⅱ）

平成28年度あざみあ地域協働事業

第三回 中田一丁目女性防災講座

男性も大歓迎

日時：平成28年10月28日(金) 午後7時から

場所：伊河麻神社 1階 集会場

講師：地域総務課地域防災係主幹兼係長 安本 治之 氏



静岡市の防災担当職員が教える
『災害時に備えておく便利な生活用品』



被災地へ向かう時に持っていく、バッグの中身を公開します。
4月の熊本地震にも、すぐに駆けつけて、現地での生活を体験されています。
これだけは用意すると良いもの、役立つものなどを実際に見せながらお話していただきます。

<申し込み欄>

区 組

※ 各組長は10月15日までに町内会長までお願いします。

参加者のお名前

問い合わせ先：中田一丁目女性防災グループ（代表 7区 井上 ☎ 289-2955）

チラシ（防災講座Ⅲ）

2. 平成 28 年度

女性のための防災・減災リーダー養成講座

特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク

代表 落合 美恵子

1. 事業目的

近年巨大災害が発生する中、静岡県内の自主防災会組織や職場には女性役員の配置がなされているところは数%にすぎません。いざ災害が発生した場合に避難所運営や物資調達配布など決定の場に女性目線の視点が重要です。そのためにこの養成講座を開催し女性が防災・減災の知識を得て、まずは自分や家族の防災・減災リーダーとして命を守ること。そして自主防災会組織や職場において防災・減災に女性役員として積極的に関わり、防災計画など決定の様々な場面で活躍していただくことを目的とします。

2. 事業内容

【開催日時】平成 28 年 9 月 24 日（土）

8：45～16：30

平成 28 年 9 月 25 日（日）

9：00～16：15

【実施場所】御前崎市佐倉公民館

及びさくらんぼホール

【対象者】防災・減災に関心のある静岡県内の一般（特に女性）

【参加人数】養成講座 69 名

防災講演会 130 名

（地区別）

沼津市 1 名 駿東郡長泉町 1 名
駿東郡清水町 1 名 富士市 2 名
静岡市葵区 3 名 静岡市駿河区 6 名
静岡市清水区 1 名 川根本町 3 名
藤枝市 4 名 島田市 1 名 牧之原市 1 名
御前崎市 30 名 掛川市 3 名 袋井市 1 名
磐田市 3 名 森町 1 名
浜松市浜北区 2 名 浜松市中区 1 名
浜松市西区 2 名 浜松市北区 1 名
三重県松阪市 1 名
合計 69 名（内男性 21 名）

（リーダー認定者地区別）

駿東郡長泉町 1 名 駿東郡清水町 1 名
富士市 2 名 静岡市葵区 1 名
静岡市駿河区 4 名 静岡市清水区 1 名
川根本町 3 名 藤枝市 4 名
御前崎市 22 名 掛川市 2 名
袋井市 1 名 磐田市 2 名 森町 1 名
浜松市西区 2 名 浜松市北区 1 名
三重県松阪市 1 名
合計 49 名

【協力】御前崎市役所防災課 2 名、福祉課 2 名
御前崎市社会福祉協議会 2 名

【講師・アドバイザー】（行程順）

- ・落合美恵子（NPO 法人御前崎災害支援ネットワーク代表理事）
- ・池田恵子氏（静岡大学教育学部 教授）
- ・井ノ口宗成氏（静岡大学情報学部 講師）
- ・御前崎市消防署職員 4名
- ・油井里美氏（静岡県危機情報課静岡県地震防災センター班長）
- ・岡本 正氏（銀座パートナーズ法律事務所 弁護士）
- ・木村佐枝子氏（常葉大学健康プロデュース学部准教授）
- ・晝中一成氏（建築物危険度応急判定士）
- ・小村隆史氏（常葉大学社会環境学部准教授）
- ・永野 海氏（中央法律事務所 弁護士）
- ・植松真樹氏（静岡法律事務所 弁護士）

◆ 1日目 9月24日（土）

☆ 1時限目「避難所本部運営の基礎知識」

落合美恵子氏（ネットワーク代表理事）

- ・午後の避難所本部運営訓練に備え基本的な役割や分担について説明があった。
- ・役割分担には避難者管理班、総務統括班、施設管理班、情報班、保健衛生班、要配慮者班、食料物資班、ボランティア受付班などの分担がありそれぞれの内容を把握した。



☆ 2時限目「災害時の女性と子どもへの暴力とその対策」

池田恵子氏（静岡大学教育学部教授）

- ・避難生活の中で性暴力や子どもに対する暴力があること。「暴力は犯罪だから警察を呼びます」と見えるところに貼り出すことなど防災対策を学ぶ。
- ・こういう事実がある事を伝えていく必要がある。恐怖心をおおるのではなく、準備をする段階から考えて対応しておくことが重要だ。
- ・男性と女性の精神的な性差というのはなかなか埋まらない「夜道を歩いていて襲われるのは女が悪い」というのが男性には根強く、男性自身が考え方を変える必要がある。しかし、男性ばかりではなく男女共同で避難所や地域の環境を安全に人権を守る活動が必要であること。



☆ 3時限目「災害時の状況判断から対応を考える」

井ノ口宗成氏（静岡大学情報学部講師）

- ・情報を意味のあるものにする。そのために必要な事は何か？何ができるのか？考える事が大切だ。
- ・状況判断するにあたって今だけでなく未来につながるような判断をすることも大切だ。
- ・「情報分析の重要性」「仕事は階層的に」「撤収を決定する者」の情報を判断する人材の確保が重要。

・チェックシートの活用、避難者カードなど実現活用ができれば感情的にならず冷静に活動できる。誰でも動けるよう責任者、リーダーに仕事が集中しないように状況を判断できるようになれば多くの協力が得られる。



☆ 4 時限目「避難者受入れ実践及び避難所本部運営訓練」実践

避難者管理班、総務班、施設管理班、情報班、保健衛生班、要配慮者班、食料物資班、ボランティア受付班（各班長：ネットワーク理事・会員）
避難者協力（御前崎市身体障がい者福祉会、御前崎市手をつなぐ育成会など）

《避難者管理班》

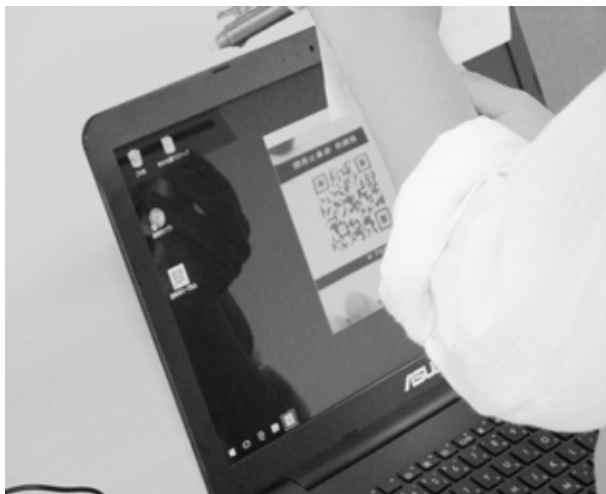
- ・受付時の入力で避難者に登録カードを記入してもらったが滞留してしまった。しかし、PCに一度登録されQRコード付きのカードで管理すれば運営にあたり非常に便利だった。管理者側も情報の整理がしやすく運営スタッフとして管理状況がすぐに把握ができ災害対策本部と避難所の情報が共有できることで迅速な支援対策が取れる。
- ・実際に地域の住民や障がい者（身体、知的）に参加していただいた訓練はとても重要で有意義なものであった。
- ・QRコードで被災者管理の実用を考えた時に「QRコードが無いと物をもらえない」とか物資を受け取った人がQRコードを読み込まないと実数の管理ができないなど注意が必要だが、明

らかに実用化して災害に備えたい。



《総務班》

- ・QRコードを利用することにより被災者の全般的な把握ができて便利である。受講者も「めんどくさい」ではなく「もっとこうしたら良い」と前向きな意見が出てとても良かった。



《施設管理班》

- ・段ボールを事前に集め準備してきた。段ボールのベッドや椅子はとても簡単に作ることができた。しかし、高さが低いことや手すりを付けて欲しい等、身体障がい者から提案があった。
- ・知的障がい者には部屋にテントを張り中に入ってもらい試してもらった。「中に入ると落ち着く」ことが分かった。
- ・簡易トイレをブルーシートで囲むだけだと天気の良い日には透けてしまうのでは？新聞紙や黒ビニール、段ボールでの補強が必要。車いすが入れるように広さ、手すりを考える。



《情報班》

- ・各セッションに自ら情報を収集に行き、情報を内外へ伝達するには発信方法・手段を細かく詰めていくことも大事。
- ・情報公開の同意された人の2重チェック、パソコンと手書きの確認が必要だ。
- ・色々な班があり、その連携がうまくいかないと中々動きが取れないことが分かった。欲しい情報といらなくなった情報は素早く対処しないといけないと実感した。
- ・安否確認用の名簿は二重チェックして住民票閲覧制限をしている人の情報を十分気を付ける必要がある。



《保健・衛生班》

- ・具合の悪い人やケガをした人が今日は少しだったが実際は横たわった人や叫ぶ声などでパニックになってしまうと思う。「痛い、痛い」と声を上げる人より言葉が出ない人の方が危険。注意したい。
- ・トリアージの「黒」の方の居場所やその後の

対応についても知る必要がある。



《要配慮者班》

- ・要配慮者（困りごとを抱える方）に対するケア、目配りをどこまでやるか？訓練で実際に体験して「覚悟」を持たなければならない。
- ・優先順位の配慮が必要。どこに何の案内、受付などがあるのか全体像を把握する必要がある。
- ・普段接していない知的障がい者の皆さんが参加してくれたので実感が湧いた。

《食料・物資班》

- ・ハイゼックスを使ったホットケーキ料理を避難者にQRコードのチェックをしてもらい渡した。障がい者の皆さんが自宅で試してみると言っていたのが良かった。
- ・実際はどのくらい作るのが、食材はあるのかと頭を使う事になる。変化に対応できるようにする。

《ボランティア受付班》

- ・避難所内のボランティアをやりたい人と、やってほしい人の受付の区別がつかなかったので「ボランティア申し込み受付班」としました。

- ・被災者の支援サポートをするなら事前にチェックリストがなければ支援必要者のニーズの把握に苦慮する。
- ・各地域でニーズと供給ができないか？出した要望がいつ実行してもらえるのか？情報のフィードバックやルートの方法の検討が必要。



◆2日目 9月25日(日)

☆1時限目「身近な知識で手軽に出来る防災対策」

油井里美氏（静岡県危機情報課地震防災センター班長）

- ・女性の視点による防災。男性が中心になりがちですが、女性の目線に立っての防災レシピや日頃の整理整頓も必要な仕事、使っているバックの中に何を入れておくか考えおく。
- ・「なでしこ BOUSAI パワーズ」は行政の人と民間の人が同時に同じ立場で活動している画期的な活動。「わがこと化」「防災を日常化」するよう活動していく。

☆2時限目 公開講座「防災を自分ごとにする生活再建の『知識の備え』」

岡本正氏（弁護士・銀座パートナーズ法律事務所）

- ・災害時の住宅債務に関する特別債務整理がブラックリストに載らないでできる法律改正がなされた。
- ・判例では災害後の行動に注目していて災害後の情報収集、情報取得後の判断能力を求められ

ていることが分かった。災害後を生き抜くための知恵が得られた。

- ・企業として安全配慮義務をどう果たしていくか？また、社員の生活再建の知識をどう備えていくか考えることが必要。



☆3時限目「災害時におけるところとからだの健康」

木村佐枝子氏（常葉大学健康プロデュース学部准教授） 学生2名

- ・災害時の心の変化について誰もが「頑張ろう！」と思ったとき悲しみや不安が押し寄せてくる。
- ・健康とは病気ではないとか弱っていないとかということではなく肉体的、精神的、社会的にも全てが満たされた状態のこと。
- ・もともと精神障害がある人は2～4週間後の落ち着いた頃に特に重くなる。PFAのことを知っているだけで専門家じゃなくても地元の人たちが困っている時に手助けができる。



3. ～自省力から地域力へ～ 要配慮者の視点で 再考する防災と地域力向上のための事業

NPO 法人 はままつ子育てネットワークぴっぴ

代表 原田 博子

1. 事業目的

東日本大震災直後には、自助について見直した子育て家庭も多かったが、5年経った今、備えていないという声も多く耳にするようになった。4月の熊本地震で再びヒヤリとした人も多いと思われるが、40年近くも「東海大地震が起きる」といわれ続けている静岡県民にとって、いざという時についてどれほど真剣にとらえているか不安が感じられる。

当団体は、熊本地震で被災した赤ちゃんのいる家庭に向けて「つながる支援パック」という支援物資をバッグにまとめたものを送った。その後、被災地支援のボランティアとして嘉島町（熊本県）に入り、「つながる支援パック」のその後を検証、被災者と話をしてきた。これらの経緯や、子育て家庭の被災後の状況を多くの人に知らしめ、自助・共助の大切さ、もしもの時の備えについて多くの人が改めて考えるきっかけとする。また、「つながる支援パック」にしている「子どもがいます。マーク」「アレルギーがあります。マーク」とその意味を、いざという時に活用してもらうために紹介し、地域力向上に役立てる。

2. 事業内容

ひとりひとりが自助・共助できる体制を作り、

地域力を向上させるための託児付き講演会を開催（今年5月、嘉島町にボランティアとして入り、見聞きしてきてわかった被災地の子育て家庭を中心とした状況や、「つながる支援パック」を嘉島町等に届けた経緯など）。

また、ファシリテーター鈴木まり子氏を招き、これからの災害への備えなどについて、グループワークを行う。グループワークでは、「えんたくん」という段ボールの円卓を使うことによって、全員が積極的に参加できる討議の新しい形を試行する。

【実施日時】

平成28年8月～9月 講演会は9月12日(月)
講演会：9月12日(月)

1回目：10：00～12：00

2回目：19：00～21：00

【実施場所】

浜松市子育て情報センター、浜松市福祉交流センター他

【対象者】

子育て中の世代など、災害時に要配慮者となり得る人、地域で活躍している人、今後活躍し得る人など

【参加人数】

第1回35名、託児者6名、託児の子ども4名(当日キャンセル3名)

第2回 21名、託児なし

合計：参加者 56 名、託児者 6 名、託児の子ども 4 名

【当日の流れ】

<午前の部>

- 10:00 ～ 開会のあいさつ
- 10:05 ～ あざれあ理事あいさつ
- 10:10 ～ オリエンテーション
- 10:15 ～ 知り合いタイム（自己紹介と「災害に備えて何を用意しているか？」を話す）
- 10:30 ～ 熊本支援についての報告と、熊本の現状・課題について
講師：原田博子
- 10:55 ～ 質疑応答
- 11:05 ～ インストラクション
- 11:10 ～ グループワーク
（話を聞いて気づいたこと、印象に残ったこと、これからやってみようと思うこと）
- 11:40 ～ ポスターセッション（各グループのえんたくんに書かれているものを見る）
- 11:50 ～ アンケート記入
- 11:55 ～ 閉会の挨拶

<夜の部>

- 19:00 ～ 開会のあいさつ
- 19:10 ～ オリエンテーション
- 19:15 ～ 知り合いタイム（自己紹介と「災害に備えて何を用意しているか？」を話す）
- 19:30 ～ 熊本支援についての報告と、熊本の現状・課題について
講師：原田博子
- 20:55 ～ 質疑応答
- 20:05 ～ インストラクション

20:10 ～ グループワーク

（話を聞いて気づいたこと、印象に残ったこと、これからやってみようと思うこと）

20:40 ～ ポスターセッション（各グループのえんたくんに書かれているものを見る）

20:50 ～ アンケート記入

20:55 ～ 閉会の挨拶



あざれあ交流会議久島理事にご挨拶をいただきました



熊本支援報告：原田博子氏（NPO 法人はままつ子育てネットワークぴっぴ）



ファシリテーター：鈴木まり子氏（NPO 法人ファシリテーション協会フェロー）

4月に、ぴっぴが多くの人の協力や寄付を得て行った熊本支援と、その後、熊本に行き経過を調査したことについての報告は、参加者からも「つながる支援パックという支援の在り方を、もっと広く知ってもらいたい」といってもらえるなど、好評でした。

参加者も、子育て中の当事者、地域の社会福祉協議会などの地域の役割を担っている人、子育て支援を行っている人、企業の方など、様々な立場の方がおり、それぞれの立場でこれからのために何ができるかを考えることができました。



「えんたくん」を使用したワークショップの様子。

「膝を付け合わせて」という距離感から、全員が積極的に参加するワークショップとなりました。ファシリテーターのちょっとしたアドバイスや注意によって、全員で考え、意見を出し、人の意見を聞くことができました。このワークショップについても、参加者からの声として「ぜ

ひ、自分たちも使ってみたい」というものがあり、これは参加者に手ごたえがあったからこそその言葉として解釈すれば、今回の参加者の達成感を示すものと捉えています。

また、ファシリテーターの意見の引き出し方の手法は、私たちの今後の参考になりました。



午後の部で使ったワークショップの意見を、夜の部では掲示しました。



パネルを使って、防災に関する知識などを掲示し、啓発しました。



具体的に何を入れて支援したのかということが、一番注目されていました。



託児の様子

3. 今後の展望

①支援の形の課題解決と実践：熊本支援を行ったということを通して、見えてきた課題もたくさんあるため、一つ一つ課題を解決して、「つながる支援パック」をよりリアリティの高いものにしていく。

②地域のネットワーク構築：熊本地震の衝撃があるとはいえ、防災意識はまだ低い。地域で活躍する人たちとのネットワークを作ることができたので、それを活かして、防災意識を高めるための実践を行っていく。

③地域力を高めるための実践：今回の参加者をはじめとして、地域のキーパーソンにすでになっている人だけではなく、キーパーソンとなり得る人をキーパーソンになってもらえるような取り組みをすることによって、地域力をさらに高めたい。また、現在キーパーソンとなっている人には、男女共同参画の視点の重要性をさらに理解してもらい、いざという時に役立ててもらえるようにかかわりあっていく。

4. 協働団体

- ・災害時にも助け合えるネットワークはままつ

平成28年度あぐれあ地域協働事業

びっびの熊本支援報告 & 大災害から私たちのこれからを考える

NPO法人はままつ子育てネットワークびっびは今年4月の熊本地震で被災された子育て家庭のため、乳幼児向け支援物資をバックにまとめたもの「つながる支援パック」を現地に送り届けました。これは多くの方々からのご寄付により実現しました。そこで、この支援の経緯や子育て家庭の被災について報告会を催します。これを機会に、自助・共助の大切さ、もしもの時の備えについて、私たちとともに考えませんか？

ファシリテーター 鈴木まゆ子氏 NPO法人日本ファシリテーション協会フェロー
司会者 藤田博子氏 NPO法人はままつ子育てネットワークびっび代表

日時 平成28年 **9月12日(月)**
①10:00～12:00 ②19:00～21:00 **50名**
※このほかに内容です。参加費、この日のみ無料です。

会場 **浜松市福祉交流センター 4F大広間**

対象 ①の会費あり 要予約 (対象年齢の親子、20名程度、予約料500円)

※主催：NPO法人はままつ子育てネットワークびっび
※後援：浜松市、静岡県福祉・参事部、静岡県福祉政策推進課、静岡県福祉政策推進課、静岡県福祉政策推進課、静岡県福祉政策推進課

※お申込み 8月10日(水)から
先着順に受付。定員になり次第締め切ります。
NPO法人はままつ子育てネットワークびっびまで
電話(053-457-3418) あるいは 窓口(浜松市福祉交流センター)から
メール 053-457-3418 あるいは 053-457-3418

QRコード

参加費 **無料**

地図